

コミフォラの育て方

Commiphora

カンラン科 / Burseraceae

紙状に薄く剥がれていく樹皮と、じわじわ肥大していく caudex（塊茎状の幹）。没薬（ミルラ）を分泌する芳香樹脂植物としての顔も併せ持つ、実生から気長に育てたいコーデックスです。

基本データ

🌱 成長期

夏型（春～秋生育、冬は落葉して休眠）

🌡 耐寒温度

最低10℃前後が目安（低温にやや弱い）

☀ 日照

日なた（強い直射日光・風通しの良い環境を好む）

📅 播種適期

春～夏（高温期）

🕒 発芽日数

20～30℃で数日～数週間が目安（前処理の有無や種により、時に数か月かかることも）

📍 主原産地

アフリカ北東部・マダガスカル・アラビア半島・インドの乾燥～半乾燥地

🌱 難易度

概要・魅力

Commiphora（コミフォラ）属はカンラン科（Burseraceae）の中でも最大級の大所帯で、認められている種数はおよそ190～200種にのぼります。分布の中心はアフリカ北東部（エチオピア・ソマリア・ケニアなど）ですが、マダガスカル、アラビア半島、インドの乾燥～半乾燥地にも広く分布しています。マダガスカルへは少なくとも4回の独立した移入があった後、島内で多様な種へ枝分かれしていったことが分子系統解析からわかっており、同島だけで属全体の4分の1近い種が見られる多様性の中心地の一つです。

属名"Commiphora"はギリシャ語で「ゴム・樹脂を運ぶもの」を意味し、ほぼ全種が芳香性の樹脂（オレオレジン）を分泌します。この樹脂は近縁のBoswellia属（乳香）とともに「没薬（ミルラ）」として古くから珍重されてきました。

コーデックス（塊根植物）として観賞栽培で人気なのは、紙状に薄く剥がれていく個性的な樹皮と、肥大したcaudex（塊茎状の幹）を発達させるタイプです。落葉性の夏型で、生育期には葉を茂らせ、休眠期には落葉して幹だけの姿になります。

- **C. wightii**（インド）：アーユルヴェーダで珍重される樹脂「グググル」の基原種。薄い紙質の樹皮と赤～ピンクの小花が特徴です。
- **C. myrrha**（ソマリア・エチオピア）：没薬の代表種。銀白色～青灰色の樹皮が紙状に剥離します。
- **C. guillauminii**：マダガスカル固有種。灰褐色の樹皮と細く棘のある枝が野性味を感じさせます。
- **C. kataf**（東アフリカ～アラビア半島）：白く紙状の樹皮が印象的で、活着後は幹の肥大が早いとされます。

- **C. kraeuseliana**（ナミビア～南アフリカ）：くねった細い枝が房状に茂る独特の樹形が人気です。

一方で分類は非常に難解な属としても知られ、落葉時に花のない状態で採集されることが多いことなどから「impossible genus（分類不可能な属）」と呼ばれることもあります。それだけに、実生から気長に育てて自分だけの株姿を仕立てていく過程が、コミフォラ栽培ならではの醍醐味と言えるでしょう。SEEDSTOCKでは、こうした個性豊かなコミフォラ属の種子を取り扱っています。

置き場所

コミフォラは自生地の乾燥～半乾燥地を反映して、強い直射日光と風通しの良い環境を好みます。日照が不足すると枝が間延びする徒長を起こし、紙状に剥がれる樹皮の美しさも損なわれてしまうため、できるだけ屋外でしっかり日に当てて管理しましょう。

生育期（春～秋）は屋外の日当たり・風通しの良い場所に置き、終日直射を当てるのが基本です。自生地では40℃近い高温にも耐えるとされますが、日本の蒸し暑い夏は苦手な面もあり、風通しの悪い場所では蒸れによってカイガラムシが発生しやすくなります。真夏の直射が強すぎると感じる場合は、一時的な遮光や半日陰への移動を検討してください。

冬（休眠期）は寒さにやや弱く、10℃を下回ると生育に支障が出始めます。気温が下がり始めたら室内の日当たりの良い場所へ早めに取り込み、最低でも10℃前後を保ちましょう。窓際は夜間に冷え込みやすく結露も生じやすいため、日中は日光浴させつつ、夜は窓から少し離すなどの工夫をすると安心です。

SEEDSTOCKで種子をお迎えして実生を始める場合も、まずは日当たりと風通しの良い置き場所を確保することが、丈夫な株に育てる第一歩になります。

○ 水やり

コミフォラは生育期と休眠期でメリハリをつけた水やりが基本です。生育期（春～秋）は、用土の表面が完全に乾いたのを確認してから、鉢底から流れ出るまでたっぷりと与えます。「乾かしてからたっぷり」を繰り返すことで、根が丈夫に育ちます。

休眠期（秋～冬）に入り落葉が始まったら、水やりの頻度を大きく減らしていきましょう。晩秋から春先までは断水気味の管理が基本で、完全に土が乾ききってから少量、または月1～2回ごく軽く湿らせる程度にとどめます。休眠期の過湿は塊根植物にとって致命的なダメージになりやすく、根腐れの最大の原因です。

樹形を締めて枝分かれの多い引き締まった株姿に育てたい場合は、生育期でもあえてやや乾かし気味に管理すると、徒長を防ぎながら見栄えの良い樹形に育てられます。水やりに迷ったときは、多めに与えるより「もう少し待つ」判断のほうが安全です。

🔧 用土・植替え

コミフォラの栽培では、排水性を最優先した多肉植物・塊根植物向けの用土が基本です。配合例としては、硬質赤玉土4：軽石4：ゼオライト1：くん炭1のような無機質中心のブレンド、あるいは市販の多肉植物用培養土に軽石・パーライトを3～6割ほど混ぜ込む方法があります。粒の細かすぎる用土は通気性を損なうため、小粒～中粒を選びましょう。

実生から育てている間は、無肥料の用土を使うのがポイントです。肥料分があると藻やカビが発生しやすくなるため、発芽後しばらくは清潔な無機質用土で管理し、1年ほど経って植え替えのタイミングで肥料入りの用土に切り替えるとよいでしょう。

植替えの適期は3～5月頃、新芽が動き出す直前～直後です。頻度は年1回程度を目安にし、根を無理に崩したり切ったりする必要はありません。鉢は、塊根（caudex）よりひと回り大きい程度の浅め・幅広な鉢を選ぶと、肥大した塊根の見栄えが良くなります。

🌱 発芽のさせ方

コミフォラの実生における最大の関門は、種皮が非常に硬い「硬実種子」であることです。無処理のまま播くと発芽率が著しく低くなることが知られており、前処理（傷つけ・浸漬など）をひと手間かけるかどうかで結果が大きく変わります。SEEDSTOCKの種子でも、以下の手順を参考に前処理から挑戦してみてください。

1. 種子を傷つける（スカリフィケーション）：紙やすりで種皮の表面が薄く光沢を失う程度にこするか、デザインナイフで浅い切れ込みを入れます。硬い種皮に水分や酸素が通りやすくなり、発芽のきっかけを作ります。
2. 浸水させる：傷つけた種子を水（またはメネデル等の発根促進剤の希釈液）に浸けます。24時間ほどを目安に、こまめに水を替えながら吸水させましょう。温湯（60～70℃程度）に短時間浸けてから常温の水に切り替える方法も実践されていますが、種によっては常温～冷

水への浸漬のほうが向くという報告もあり、前処理の最適解は様々ではありません。

3. 用土を準備する：赤玉土・鹿沼土・軽石など無機質中心の水はけの良い用土を使い、実生期は無肥料にします。カビ・藻の発生を防ぐため、清潔な新しい用土を使いましょう。
4. 播種・覆土する：種子が重ならないよう用土の表面に置き、種子が隠れる程度に薄く覆土します。
5. 加温して高湿度を保つ：発芽適温はおおむね20～30℃を目安にしてください。ラップや透明な蓋で覆って高湿度を保ちつつ、1日数回換気してカビの発生を防ぎます。ヒートマットを使うと温度を安定させやすくなります。
6. 発芽を待つ：発芽までの日数には個体差・種による差が大きく、早ければ数日～数週間、前処理をしても数か月かかることがあります。焦らず気長に管理を続けましょう。発芽が確認できたら、徐々に換気を増やして外気に慣らしていきます。

前処理の効果や発芽適温・日数には情報源によって幅があり、統一された見解は確立されていません。まずは紙やすりでの傷つけ＋浸水という基本の前処理から試し、結果を見ながらお手元の環境に合わせて調整していくのがおすすめです。

🐛 病害虫・トラブル

コミフォラは生育期・休眠期のメリハリさえ守れば比較的丈夫な属ですが、いくつか気をつけたいトラブルがあります。

- 根腐れ：過湿・水はけ不良が主な原因で、特に休眠期の水のやりすぎ（冬の過湿）は致命的になりやすいトラブルです。幹の基部が軟らかくなったり変色したりしたら要注意。鉢から抜いて傷んだ根を取り除き、水はけの良い新しい用土に植え替えて灌水頻度を見直しましょう。
- カイガラムシ：茎や枝に褐色の小さな突起として付着し、吸汁して株を弱らせます。甘露状の分泌物からすす病を誘発することもあるため、見つけ次第ブラシで物理的に除去し、ニームオイルなどで対処します。風通しの悪さが発生要因になりやすいので、日頃から風通しの良い置き場所を心がけましょう。
- コナカイガラムシ・ハダニ：多肉植物全般によく見られる害虫で、コミフォラにも発生することがあります。早期発見・早期の物理除去が基本です。
- 徒長：日照不足で枝が間延びし、紙状に剥がれる樹皮の美しさが損なわれます。屋外の強い日照と風通しの良い環境で予防しましょう。
- 実生時のカビ・藻：肥料入りの用土や過湿・換気不足で発生しやすいトラブルです。無肥料の清潔な用土を使い、適度な換気を保つことで防げます。

✍ 栽培メモ



コミフォラの種子を探す
QRを読み取る／seedstock.jp